

黒田庄まちづくり協議会より

〈まちづくり活動報告会についての報告〉

去る4月21日(木)に西脇市市民交流施設オリナス内のつながるスタジオに於いて、地区まちづくり実践補助事業、市民提案型まちづくり事業、地域自治協議会事業実施団体の活動報告会が開催されました。

地区まちづくり実践補助事業では、「野村地区まちづくり推進協議会」から公民館での文化祭・秋まつり・卓球等のサークル活動・西脇市駅や野村公園での花いっぱい運動・西脇高校美術部と連携した壁画アート・イルミネーションの点灯イベントの実施、「重春まちづくり協議会」から頼政まつり・広報紙の発行・コスモス畑や3品種の桜の木の植樹などの景観づくり・サツマイモと小芋の収穫祭・登山道の整備・重春作品展の実施の報告がありました。

市民提案型まちづくり事業では、「北はりま障がい者美術公募展世話人会」から第2回北はりま障がい者美術公募展事業、「西脇多可硬式野球クラブシャイン」から第1回エコポール杯中学生硬式野球大会事業、「よりあう」から西脇市民のための健康増進事業の報告がありました。

地域自治協議会事業実施団体では、市内4地区(津万・比延・芳田・黒田庄)で設立されている地域自治協議会を代表して、「黒田庄まちづくり協議会」からパワーポイントで活動の報告をしました。

黒田庄まちづくりの目標を“千年の風土を未来につなぐNEW黒田庄づくり”とし、1. ふれあいのある黒田庄づくり 2. 暮らしやすい黒田庄づくり 3. 魅力ある黒田庄づくり 4. 成長発展する黒田庄づくりとしています。

令和3年度の主な取り組みは、地域交流拠点の西脇市黒田庄交流拠点施設あつまっ亭(JR黒田庄駅)の活性化として、あつまっ亭「チャレンジショップ」・あつまっ亭感謝祭・岡の水辺体験コースのハイキングの実施、黒っ娘おばんざいの活動として、地産地消による地域の郷土料理や伝統食の製造・販売・特産品加工の研究など、イルミネーション点灯では、黒田庄を明るくし、子どもたちに夢を与えよう! とするため設営箇所の増設、福祉送迎車を活用した取り組みとして、身体の不自由な高齢者・障がい者の方を対象に医療機関等への送迎、毎週水曜日・金曜日の下校時に青色パトロールカーで子ども見守り活動をしています。

また、平成28年度に黒田庄地区まちづくり計画を策定し、その計画に基づき、黒田庄地区のまちづくりを推進していますが、今年度で5年目を迎えるため、黒田庄地区まちづくり計画検証会を開催し、計画を見直すことにしました。

検証会では、これまでの黒田庄地区まちづくり計画や取り組み状況の報告、ワークショップなどを実施して、黒田庄地区まちづくり計画改定版を作成し、その計画に基づき、これからの事業展開や安全・安心なまちづくりの推進を目指すなど取り組みの報告をしました。



黒田庄まちづくり協議会報告の様子

第192号5月



編集・発行
黒田庄まちづくり協議会
西脇市黒田庄町前坂2140番地
TEL 28-2121
令和4年5月15日発行



黒田庄地区の人口
(R4.5.1現在)
男 3,084
女 3,293
計 6,377
世帯数 2,645
人口前月比 (-18)

★「一字一石塔」下の埋設小石の発見★

私が、一字一石塔について知るきっかけとなったのは、当時楠丘小学校4年生が学校からの帰り道で偶然見つけた1つの小さな石ころでした。「子ども見守り活動隊」の一員として、喜多墓地前の県道横断歩道箇所立ち番をしていた時、石を拾った小学生が私に見せてくれたのが写真の小石でした。筆文字で「須」という字がきれいに書かれていました。拾った小学生からしばらく石を預かり西脇市郷土資料館(以下「郷土資料館」という)へ持参し、学芸員に見てもらい初めて「一字一石塔」の地下に埋設されていた石であると判明。その後、石を拾った小学生は一旦帰宅した後、友だちと再び拾った場所へ行き各々文字が書かれた石を20個程拾い集めていました。そして翌日、学校から帰宅後、私と一緒に3人で郷土資料館へ石を持参しました。郷土資料館には比延地区で発見された石が既に展示されていて、小学生たちも興味深そうに見ていました。これがきっかけで地域の歴史に興味を持ち、愛着を感じるようになってほしいものです。

その後分かったことは、石を拾った付近には元々三昧堂、道標の他に一字一石塔もあったようで、県道の改修工事に絡み移設等されたのでした。この場所にあった一字一石塔は、すぐ東にある喜多墓地の入り口付近に存在していました。ただ一字一石塔の移設という事例はこれまでほとんどなく、工事関係者や地元住民も地下に埋設物があることに気付かなかったようです。後日、郷土資料館学芸員が工事施工業者の協力を得て、地下に残存していた石を回収しましたが、砂入れ袋で14袋になりました。

この一字一石塔は、明治42年に村内大工?が建立したもので、正面には上に「一字、一石」が並列に刻まれ、その下に大きく「法華塔」と記されています。そして裏側に書寫として3人の名前が刻まれていることから、埋設されていた小石に文字を書いたのはこの3名だと思われます。回収された小石の数は不明ですが、袋数からみて数千個はあると推測されます。黒田庄地区で一字一石塔を調べた結果、15基確認。黒田庄地区で存在する場所は、墓地及びその周辺6基、お堂1基、旧街道沿い5基、寺社境内2基、その他2基となっています(お堂1基は旧街道沿い5基に重なる)。建立は、江戸時代後期(1800年代)6基、江戸時代中期(1700年代)1基、明治時代2基、不明6基です。建立者は、個人名が記されているものが大多数ですが、「当村中」となっているものもあります。正面の表記は、法華塔、大乘妙典などと刻まれています。



石ころに経典を書写したものを「磔石経」と言いますが、一つの石に一字ずつ書写したものが多いため「一字一石経」とも呼ばれています。そして、その石を地中に埋設した人や年代、理由等を刻んだ石碑を一字一石塔と呼んでいます。一字一石塔は極楽往生・現世利益・追善供養などの祈願のために行われました。現存するもので一字一石経塔のもっとも古いものは、大分県上尾塚の晋光寺参道の八面幢に刻まれている暦応2年(1339年)のものですが、一字一石の経碑の大部分は江戸時代に建立されたと考えられます。石ころは普通3cm位の扁平な川原石を選んだものが多く確認されています。

法華経は、大乘妙典のひとつで誰もが平等に成仏できるという仏教思想の原点が説かれています。大乘妙典はいわゆる妙法蓮華経と呼ばれる最高の経文であり、二八の「品(ほん)」という章に分かれすべてを写経すると69,384字となります。紙に写経するにしても大変な日時を要するのに小石一つに一字を書いていくことは想像を遥かに超える修行です。小石に墨字を書くのには見た目にも美しい丸い小石が必要となります。河原で約七万個の小石を集め、一日に300字を書いたとして230日余りもの日数を要します。小石を拾い丁寧に拭きそして写経を行う、その尊い小石を積み上げ供養塔を立て結願の納経法要を行う。納経塔は写経した経文そのものを埋め記念に立てた塔です。(M.S)

■参考文献 「新版仏教考古学講座第6巻経典・経塚」、「高砂市史第七巻別編文化財・民俗」、「乱川一字一石経壇塔遺跡発掘調査報告書」



虹の会工房

就労継続支援B型&生活介護&グループホーム

特定非営利活動法人虹の会工房は平成24年4月に設立しました。満十歳になりました。記念の行事を企画するべきかもしれませんが、このコロナ禍ではなかなか難しいです。(言い訳に感じますが、内部から発声がないもので。)このNPO法人について書いてみます。

内閣府のホームページでは、特定非営利活動を行う団体に法人格を付与すること等により、ボランティア活動をはじめとする市民の自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進することを目的として施行されました、とあります。その特定非営利活動とは20種類の分野があり不特定かつ多数のものの利益に寄与することを目的とするものです。たくさんのNPO法人がある今、私感ですが決して個人の売名行為に使うものではありません。この法人は、毎事業年度初めの三か月以内に前年度の事業報告書等を利害関係者に閲覧させる義務と所轄庁に提出する必要があります。また、インターネットで誰でも観ることができます。

難しい話になりましたが、虹の会工房は障害福祉事業と黒田庄福祉センターの指定管理業務を福祉の増進・まちづくりの推進を図る活動としていっそう頑張っていきます。

皆様のご支援をよろしくお願い致します。

内閣府HPで
NPO法人を
見てみよう！



<黒田庄こども園ニュース>

<大空高く舞い上がれ！>



3年ぶりに新型コロナウイルスに関する行動制限のないゴールデンウィークとなりました。皆さんはいかがお過ごしでしたか？観光地はどこにもぎわっていたようですね。人出に伴い高速道路も混雑していました。困られた方もあったのではないのでしょうか？

さて、黒田庄こども園では、5月に入り2人の仲間を迎え、園児数は105名となりました。行事では、4月28日の「遠足」、そして5月6日の「こどもの日のつどい」と、好天に恵まれました。こどもの日、こいのぼりが真っ青な青空をバックに輝いて見えました。子どもたちは、こいのぼりの歌やダンスを楽しみました。お話のコーナーでは、鯉君と鯉さんの2人が、竜のかぶとをもらうために一生懸命に頑張る姿を職員が演じました。滝を必死で登る姿に「がんばれー！！」の大合唱が響きました。その後、ミニミニかけっこをしました。鯉のぼりに向かって元気に走るこどもたちに、精一杯のエールを送りました。そして最後に、園で大切に育てていたクロアゲハが前日に羽化したこともあり、子どもたちに紹介し大空に放してあげました。空高く羽ばたく姿に感動しました。子どもたちは、その様子をいつまでもいつまでも見守っていました。給食は、こいのぼりの旗がたったハンバーグとサラspa、野菜スープでした。おいしくいただきました。

黒田庄こども園のおともだち、元気いっぱいはいばたこう！！



みんなで楽しくダンス！



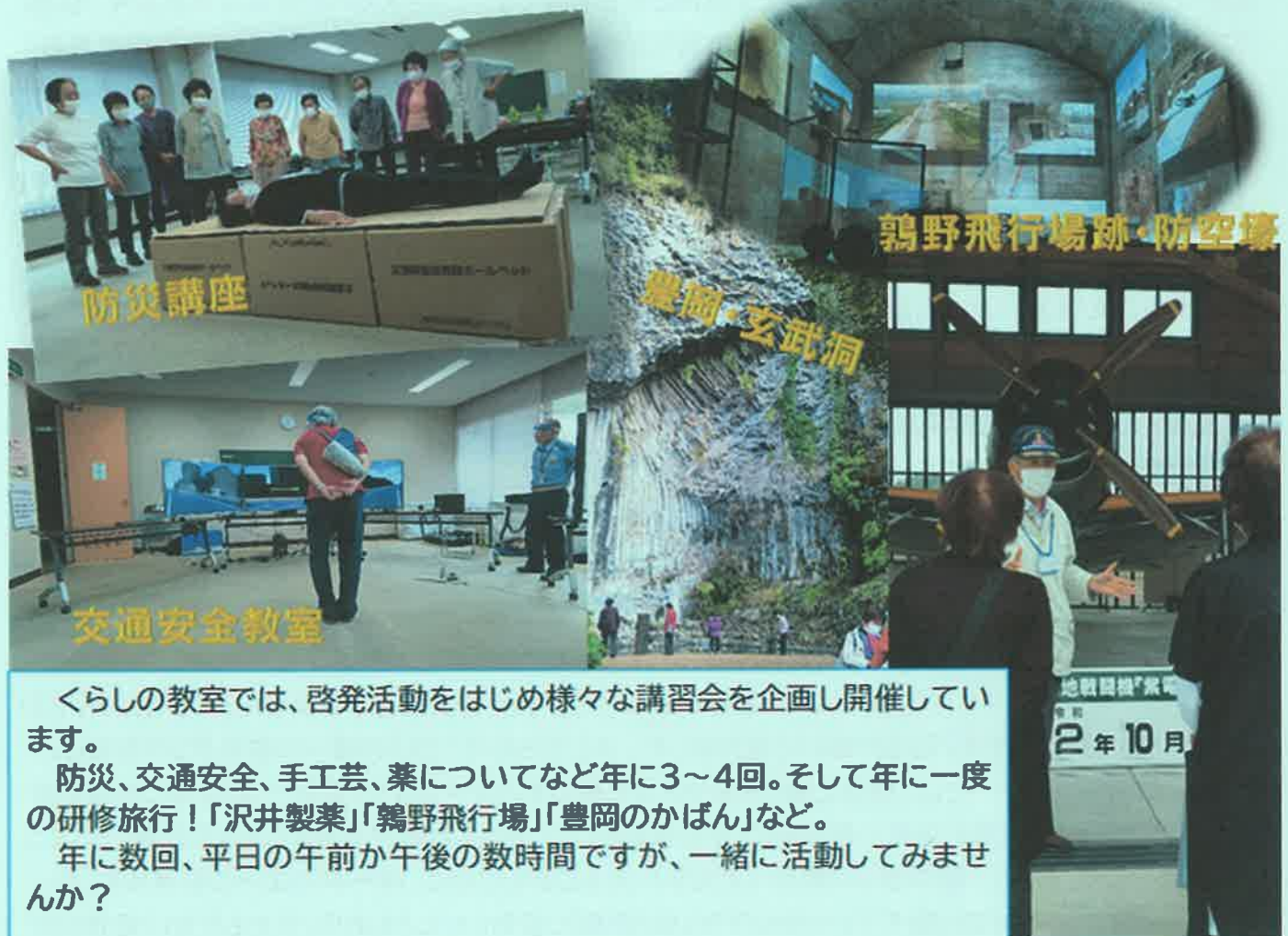
こいのぼりまでダッシュ！



クロアゲハさん、元気でね

西脇市消費者協会

くらしの教室・黒田庄 会員募集!



くらしの教室では、啓発活動をはじめ様々な講習会を企画し開催しています。

防災、交通安全、手工芸、業についてなど年に3~4回。そして年に一度の研修旅行!「沢井製菓」「鶏野飛行場」「豊岡のかばん」など。

年に数回、平日の午前か午後の数時間ですが、一緒に活動してみませんか?

【お問合せ先】

門上きく 28-2044、野原亮子 28-2732、藤井さだ子 28-2545

編集後記

今年度から兵主神社の氏子総代に就任し、先日、最初の兵主神社会が開催されました。会議の内容は、兵主神社会の業務分担の決定と年間行事等の報告でありました。

例年10月の第2日曜日に五穀豊穰などを祈願して秋季例大祭が行われますが、一昨年と昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、屋台奉出などは行わず、神事のみで開催となっており、今年度の秋季例大祭をどうするかは7月頃に決定することになっています。今年度も神事のみで開催となれば、伝統行事が薄れていくのではないかと心配しております。

Y. I